

情報公開文

研究名

新型コロナウイルス感染症合併妊婦における分娩時の医療従事者接触時間に関する症例集積研究

研究の目的・意義

新型コロナウイルス感染症（Coronavirus disease-19：以下 COVID-19）は 2019 年 11 月に中国の武漢市で発生し、World Health Organization(WHO)は 2020 年 3 月にパンデミックを宣言して以来世界的な流行を認め、日本においては 2023 年 5 月 8 日に 5 類感染症に移行するまでは 2 類感染症に分類されており、医療の現場においては院内感染予防の観点から厳重な感染予防策を講じていました。COVID-19 合併妊婦の分娩に関する管理指針については、国際的にも一定の見解は得られておらず、諸外国のガイドラインもその取扱いは多様を極めており、本邦においても COVID-19 合併妊婦の分娩指針は各施設に委ねられているのが現状です。当施設は地域周産期母子医療センターとして年間約 1000 件の分娩を取り扱いながらも、2014 年の新築移転の際に新興感染症を想定した分娩室が設置されており、かかりつけ妊婦のみならず、宮城県内から広く COVID-19 合併妊婦を受入、十分な感染予防策を講じた上で COVID-19 合併妊婦の周産期管理を行ってきました。本研究は、当施設で分娩を取り扱った症例において、分娩方法ごとの医療従事者接触時間を比較することで、必要とされる医療資源に違いがあるかを明らかにすることを目的とした研究です。

研究の対象となる方と研究期間

2021 年 7 月~2022 年 12 月に当施設で出産を行った、COVID-19 合併妊婦の患者様が対象です。

研究の実施体制

研究責任者：平山亜由子 仙台市立病院産婦人科 産婦人科医長
共同研究者：四釜真子 仙台市立病院産婦人科 医員
濱田裕貴 東北大学病院産婦人科 講師

研究に用いる試料、情報の種類

診療録に記録された診療情報を用いた非侵襲・非介入の研究です。当科で管理する手術台帳より症例抽出を行い、診療録より年齢、妊娠分娩歴、分娩方法、新生児予後などのデータを収集し、統計学的に解析を行います。また分娩室や手術室の滞在時間や、接触した医療従事者の人数を詳細に解析します。

利益相反

本研究に関して利害関係にある企業はございません。

お問い合わせ先

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者さんの情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院産婦人科

研究責任者：平山亜由子

共同研究者：四 釜 真 子

仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番1号

電話：022-308-7111(代表)